

演習課題

ケース	氏名 愛さん (仮名)	性別: 女性	年齢 8歳 H22年9月生
障がい名: 重症心身障がい			
<p>(事例の概要)</p> <p>出生時体重 3.320g。8ヵ月検診でしっかりした予定がなく、医療機関Aを受診となる。その後、医療機関Aの紹介で、平成23年7月(10ヵ月)にリハビリの可能な医療機関Bを紹介受診。理学療法訓練を受ける。両親就労のため、保育園にて生活しながら、受診と訓練を継続していた。</p> <p>保育園の乳児クラスにて過ごしてきたが、児の発達に合わせた療育の機会が必要ということで、医療機関Bより、児童発達支援センターを紹介される。平成25年4月(2歳)より、児童発達支援センターに通園。平成29年3月(6歳)に児童発達支援センターを卒業。同年4月に支援学校小学部入学。</p> <p>平成29年5月よりけいれん発作が多くなる。その後、摂食、嚥下動作が円滑に行えず、食事量の減少がある。同年7月、医療機関Aの主治医から胃ろうの提案がある。</p> <p>令和元年6月(8歳)の定期受診の際に喀痰貯留、高二酸化炭素血症を認め、症状改善目的で医療機関A入院となる。入院加療も症状の改善が見られず、同年7月5日に気管切開術、胃ろう造設術を施行。呼吸に伴う気管扁平化著明であり、24時間人工呼吸器管理となる。全身状態が落ち着き同年8月末に退院し、在宅生活に戻る予定。医療機関Aから退院前カンファレンスへの出席依頼があり、同年7月29日、8月23日参加した。</p>			
<p>(医療の状況・心身の状況)</p> <p>気管切開・24時間人工呼吸器装着・必要時酸素吸入・吸引・経管栄養(注入回数 エネーボ1日3回、水分補給1日4回)。</p> <p>2歳で身体障害者手帳を取得。併1級。</p>			
<p>(家族背景)</p> <p>父(栄一さん): 音楽講師。</p> <p>母(えみさん): 専業主婦。今後の在宅生活に不安がある。</p> <p>父方祖父母: 県内在住。</p> <p>母方祖父母: 関東在住。</p>			
<p>(住環境)</p> <p>1戸建て。</p>			
<p>(家族の主訴)</p> <p>退院後の在宅生活への支援。(どんな生活になるかイメージがつかない。)</p> <p>医療的ケアが在宅で実施できるか不安。</p>			
<p>(家族構成など)</p> <p>The diagram illustrates the family structure. At the top, there are two pairs of grandparents: '市外在住' (Living outside the city) on the left and '県外' (Living outside the prefecture) on the right. Each pair consists of a square (grandfather) and a circle (grandmother). Lines connect these grandparents to a central square (father) and circle (mother). A line from the father and mother connects to a central circle (child). The father, mother, and child are enclosed in a large oval, representing the nuclear family.</p>			